

事例19

< 事例概要 >

- ・ 70歳代、肋骨骨折がある慢性維持透析中の患者。死亡時画像診断（Ai）有、解剖有。
- ・ 原因薬剤は、蛋白分解酵素阻害剤（ナオタミン）。透析室で発症。
- ・ 過去に蛋白分解酵素阻害剤（ナファモスタット）を使用し、アレルギー症状の出現無。
- ・ 骨折のため抗凝固薬から蛋白分解酵素阻害剤に変更して透析開始。2～3分後、「苦しい」と訴え、上肢硬直により静脈圧が上昇し、血液ポンプ停止。初発症状を認めた直後、不穏状態の中、返血開始。8～9分後、血圧測定不能となり心肺蘇生を開始。約20分後、アドレナリン1mgを静脈内注射。救急処置を実施するが、約2時間後に死亡。